

①

第5次芦屋市総合計画(後期基本計画)に焦点をあてて、交通安全対策連絡会(案)では、施策ツール集(No.1～No.48)を活用しながら取組を推進していく。
【限られた資源の中で絞り込む項目(取組)の検討について】
・交通事故の防止に直接的に寄与する取組
・直接的に寄与しない(間接的・事後的)取組であったとしても施策として進捗管理を行い、交通安全対策連絡会(案)の意見を聴きながら進めることが望ましい取組
・関係機関との連携・協働が必要な取組
※絞り込まない項目については、主体的に実施している取組として各団体の活動に委ねる。(＝各団体で取り組む)

Point!

第2回交通安全対策委員会(本日)において、意見交換を行い、芦屋市の令和8年度に重視する視点を決定する。

令和8年の芦屋市の状況(実数等)を考慮し、芦屋市の令和9年度に重視する視点を決定(事務局からの案の提示による(書面)意見募集)

③

<参考> 兵庫県の令和7年度に重視する視点
★道路交通に関して
○高齢者、子供、障害者等の交通弱者の安全確保
○歩行者の安全確保
○自転車の安全確保
★鉄道交通 に関して
○利用者等の関係する事故の防止

本来であれば、令和8年度の兵庫県の重視する視点を記載するべきであるが、現時点では公表されていないため、<参考>として記載しています。

○高齢者が関わる事故を防止する

令和8年度の連絡会開催時に意見交換← →令和9年度の連絡会開催時に記載

番号	実施内容	施策の 関わり	主な関係機関	具体的な取組内容	協働して取り組む団体等	検証内容	施策ツール No.	令和8年度の取組実績及び評価	今後の課題
1	交通安全協会と連携した、地域ボランティアの交通安全教室等への参加	間	芦屋警察署 交通安全協会 道路・公園課	高齢者が集まる場所やイベント等を通じた交通安全教室の実施	老人クラブ連合会 高齢介護課	実施内容が目的に合致しているか否かを定性的に評価する。 (定量データなし)	18	高齢者に向けた交通安全教室は、交通安全協会と芦屋警察が連携して実施しており、市も含めた3者で○回の教室を実施した。 また、春・秋の交通安全運動メインキャンペーンでは、芦屋警察管轄の地域交通安全活動推進委員にも声を掛け、一緒に啓発した	実施を希望する地域団体が少なくなっており、教室1回あたりの参加者が減っている。また、参加者の偏りも見受けられる。
2	芦屋さくらまつり、オータムフェスタ、校区合同防災訓練での自転車安全利用推進運動、園遊会、秋まつり等での啓発	間	道路・公園課	高齢者が集まる場所やイベント等を通じた交通安全啓発	市民参画・協働推進課 防災安全課	実施内容が目的に合致しているか否かを定性的に評価する。 (定量データなし)	25	各イベント参加者に啓発グッズ等を配布し実施した。また、オータムフェスタでは、防犯啓発と連携しブース出展を実施した。	イベント参加者に偏りがあり、届けたい方への啓発が困難である。また、イベント等への参加者は目的があり、足を止めての周知機会の確保が難しい
3	生活安全推進連絡会高齢者分科会にて交通安全指導の実施	間	芦屋警察署 道路・公園課	高齢者が集まる場所やイベント等を通じた交通安全啓発	老人クラブ連合会 高齢介護課	実施内容が目的に合致しているか否かを定性的に評価する。 (定量データなし)	43	高齢者スポーツ大会や高齢者のつどいなどのイベントに計○回ブース出展による啓発活動を実施した。また、うち○回についてはシュミレーターを活用した体験型の啓発活動を実施した。	イベント等への参加者は目的があり、足を止めての周知機会の確保が難しい。シュミレーターの活用時には、時間的制約等もあり、一部の方へのみの啓発となってしまう。また、電源や機材の角野のため、実施場所を選んでしまう。
4	待ち受け型安全教育	間	芦屋警察署	戸別訪問を通じた周知啓発活動		実施内容が目的に合致しているか否かを定性的に評価する。 (定量データなし)	46	高齢者(65歳以上)宅を戸別訪問し、特殊詐欺防止の啓発に合わせて、歩行時の事故や車両運転時の事故について注意喚起を行った。令和8年度は、○○○件の訪問を実施した。	警察官を騙る詐欺が増加傾向にあり、戸別訪問が難しくなっている。
5	データ等を活用した分析の具体化	間				実施内容が目的に合致しているか否かを定性的に評価する。 (定量データなし)	48		
6	(例)子どもが高齢者の交通安全について考える	間	保健安全・特別支援 教育課 道路・公園課	運動機能の低下など高齢者の特性を踏まえた交通安全に関する学習の実施	芦屋警察署 高齢介護課 道路・公園課	実施内容が目的に合致しているか否かを定性的に評価する。 (定量データなし)	新		

※あくまでイメージであり、実際の取組とは異なる場合があります

○自転車が関わる事故を防止する

番号	実施内容	施策の 関わり	主な関係機関	具体的な取組内容	協働して取り組む団体等	検証内容	施策ツール No.	令和8年度の取組実績及び評価	今後の課題
1	芦屋さくらまつり、オータムフェスタ、校区合同防災訓練での自転車安全利用推進運動、園遊会、秋まつり等での啓発	間	道路・公園課	イベント等を通じた啓発の実施	老人クラブ連合会 高齢介護課	実施内容が目的に合致しているか否かを定性的に評価する。 (定量データなし)	25	オータムフェスタなどの様々な世代が集まるイベントで、ブースを出展し啓発活動を実施した。	イベント等への参加者は目的があり、足を止めての周知機会の確保が難しい。
2	自転車教室	間	芦屋警察署 交通安全協会 道路・公園課	イベントを通じた体験型啓発の実施		実施内容が目的に合致しているか否かを定性的に評価する。 (定量データなし)	33	市内8小学校において自転車教室を実施した。実技が実施できない学校では、ワークシートを使用し、グループで危険が予測される場所について自転車の安全な通行方法を考えるプログラムを導入。ワークシートの学習では、実技を体験できない児童も、危険を予測し、安全な運転と通行方法を考える機会となっている。	年々実技を実施せずワークシートで対応している学校が増えている。実技をした方が理解が深まり、交通ルールも定着すると思われるため、積極的に実技を取り入れてほしい。また、保護者のニーズは自転車に乗り始めの子どもへの教育だが、学校側とは少し違っている印象がある。実施時期については学校側との調整が必要。
3	自転車免許教室	間	芦屋警察署 交通安全協会 保健安全・特別支援 教育課 道路・公園課	小学生及びその保護者を対象とした自転車免許教室を実施する	PTA協議会	実施内容が目的に合致しているか否かを定性的に評価する。 (定量データなし)	35	対象を小学3年生以上から1年生以上と対象年齢を拡大したことにより参加者数が増加した。また、参加小学生の保護者も講座や実技に参加し、啓発が難しい子育て世代への啓発も実施できた。	参加者数は増加したものの、インフルエンザ等の感染症拡大の時期と重なり、当日欠席者が複数名いたため、開催時期などについての検討を実施する必要がある。
4	自転車利用者の交通違反に対する指導取締り	直	芦屋警察署	自転車利用者への取締りの強化		GISにより事故発生傾向を追跡する。(ODC及びGIS)	36	4月1日施行の青切符制度の導入により取り締まりを強化した。年間で○○○回取締りを実施し、違反件数○○○件確認し手続を行った。取締・啓発を強化したことにより、自転車が関わる事故件数が前年比で減少した理由の一つだと考えられる。	制度の導入は実施されたが、本来のルールが変わったわけではないことなど誤解されている点については、しっかりと理解を求めていく必要がある。市民からの個々の道路も取締りをしてほしいと要望があるも、人員の問題もあり対応が難しいこともある。
5	データ等を活用した分析の具体化	間				実施内容が目的に合致しているか否かを定性的に評価する。 (定量データなし)	48		
6	(例)小学生のマッピング活用による学習	間	保健安全・特別支援 教育課 道路・公園課	自身の住んでいる地域のヒートマップ等を活用した学習の実施		実施内容が目的に合致しているか否かを定性的に評価する。 (定量データなし)	新		

※あくまでイメージであり、実際の取組とは異なる場合があります